

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今週のほっと・ニュース

復興シンボル・夜の森
の桜に見守られながら
『富岡町復興への集い
2014』開催。
町民の皆さんの表情も
笑顔満開でした。



4月12日(土)富岡町民約500人が、広野町中央体育館に集い、懐かしい思い出話や近況報告など、町民相互の結束を深められていました。



独立行政法人産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所が開所(4月19日)

独立行政法人産業技術総合研究所は、福島再生可能エネルギー研究所を平成26年4月1日に郡山市にオープンし、19日に開所式を行いました。

福島再生可能エネルギー研究所は、「世界に開かれた再生可能エネルギーの研究開発の推進」と「新しい産業の集積を通じた復興への貢献」を大きな使命とし、国内外から集う研究者・技術者等さまざまな人々と共に、再生可能エネルギーに関する新技術を生み出し発信する拠点を目指します。

■ 事業概要

福島再生可能エネルギー研究所は、以下の基本目標を掲げています。

- ①水素や蓄電池等のエネルギー貯蔵とパワーエレクトロニクスを駆使した統合システム技術を開発し、時間的に変動する大量の再生可能エネルギーを活用する技術モデルを実証
- ②軽量安価な太陽光発電モジュール等の革新的技術の研究開発を行い、大幅なコストダウンを実現
- ③健全な技術普及と社会による受入れを支えるため、地熱、地中熱等の再生可能エネルギーデータベースを構築し提供



施設・実験設備

- ①研究本館：一般実験、会議・外部連携、事務管理
- ②実証フィールド：再生可能エネルギーネットワーク実証等
- ③実験別棟：特殊実験（薄型結晶シリコン製造ライン等）



詳しくは、福島再生可能エネルギー研究所のホームページをご覧ください。
<http://www.fukushima.aist.go.jp/>

■暮らし関連2



「皆さんと一緒に地元に働いて、次の世代に未来をバトンタッチ」

■暮らし関連3



「地元の皆さんに貢献するためしっかりと事業をしていきたい。」

■NEWS 4

避難指示区域等における放射線量について
今年度の帰還困難区域への一時立入りの実施とゴールデンウィーク期間の特例宿泊の実施



「皆さんと一緒に地元で働いて、次の世代に未来をバトンタッチ」

「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業（グループ補助金）は、異なる地域であれば2回目の申請ができるようになりました。補助金を利用して避難先で仮に再開していた事業者が、地元に戻って本格営業を始めた時にも、補助金を利用できるようになりました。他の制度も被災者の要望を聞いて、運用改善が図られれば良いですね。」このように相双地域を中心に、約300社の地元企業を支援している平間所長は話されました。

「今年4月に新人2名が入社し、現在は20名の従業員で業務にあたっています。ここでの業務は、原子力災害地域特有の制度を熟知することが必要です。そこで、毎日30分の朝礼を行い、従業員の考えを統一しています。」

「震災当初は、休業していましたが、『早く営業再開して欲しい。』と電話をいただいたりなど、お客さんに背中を押して貰う格好で、地元で営業することを決意して、平成23年4月12日に再開しました。

当時は、電話でお客様の安否を確認し、従業員が避難先を訪問して、大変喜んでいただきました。」

「今、事業者の皆さんは、企業体力を蓄える時期に入っていると思います。当社は、『自計化し、自社の業績を把握しなければ、黒字経営はできない』と考え、お客さんに5年間の事業計画を立ててもらい、計画どおり着地するよう頑張ってもらっています。



事務所の目の前にある駐車場は、スペースも広くて便利です。



昨年10月に完成した事務所。2階は平間総合法律事務所です。



事務所2階で息子夫婦が法律事務所を開設しており、業務提携しています。娘は経営支援コンサルタントの仕事しています。将来は、税務・会計・コンサル三位一体で、お客さんを支援していければと思っています。

税理士 平間廣事務所 平間 廣さん

この活動によって多くの事業者が黒字化を成し遂げました。

自計化には、システム導入が有効です。当社は基礎データの入力から使い方でサポートし、納品したその日から使用できます。」

「今後の課題は、雇用の確保と教育支援だと考えています。企業を誘致し、地域の皆さんが安心して戻ってくるためには、J R常磐線の早期開通も必要です。」

「事業者の皆さんへのお願いです。復興に向けてあきらめず、事業意欲、起業意欲を保持してください。



事務所内の複合スペースで、新人2名が猛勉強中！



綺麗な事務所で、事業者の皆さんを支えます。

事業所が頑張らなければ、地域の雇用は生まれません。営業している方も、起業したいと考えている方も、痛手を被っていると思います。起業したい方は、行政の支援を受けて頑張ってくださいし、めげずに、あきらめずに、次世代にバトンタッチして欲しいと思っています。」と平間所長はエールを述べられました。

◆◆◆ 復興に向けた事業者からのメッセージ ◆◆◆



このあたりも住宅が建ち始めています。まだ不足していますが、災害復興住宅の建設も進み、解消されると思います。地元で頑張っている人がいれば、帰還しようと思う人が増えると思います。当社は従業員一同で、この地で働く皆さんを支えます。



税理士 平間廣事務所

福島県南相馬市原町区高見町2-103

営業時間：8:30~17:30（土日休み）

連絡先：0244-22-4149

URL：<http://www.tkonf.com/hirama/po/index.html>



暮らし関連情報

◆◆株式会社川村自動車販売（南相馬市）◆◆

「地元の皆さんに貢献するため しっかりと事業をしていきたい。」

「震災当時は海岸線の近くに店舗があったので、事務所と整備工場が大損害を受けました。国道6号線、周囲の道も損傷し『もうできないかな。これはもう無理かな。』と思いました。ただ、預かっていた車20台は、お客さんに届けたいと考え、従業員に連絡を取りました。」

集まってくれた従業員に対して、このまま仕事を続けるか、お客さんには迷惑をかけるが思い切って解散するか、意志確認したところ、『会社がやると言うならば、私たちはやります。ついていきます！』と営業再開に向けて背中を押してくれました。」

「営業を再開するためには、事務所と整備工場を確保しなければなりません。そこで暫くの間は、同業者の友人たちに間借りなどで、色々と助けてもらい、急場を凌ぎました。そんな中でも数多くのお客さんが、当社が営業していることを聞きつけて、点検等に来てくれました。当時は整備工場も店舗も小さく、お客さんに外で待ってもらうこともあり、迷惑をかけましたが、本当にありがたかった。」

現在は、宮城県大河原町に軽自動車専門店、南相馬市原町区に新車・中古車店、同市小高区にサービス工場を立ち上げることができました。



おもちゃいっぱいキッズスペース。
お子様と一緒にでも安心です。



6号線にある赤と白を基調にした
綺麗な店舗です。



近頃は、再開した事業者も増えて、復興の兆しを感じられるようになりました。兆しだけで終わってはいけませんので、事業者の皆さんも、この地で営業して一緒に盛り立て行きましょう。

株式会社川村自動車販売

代表取締役 川村 秀夫さん

原町の「良質車専門店ネクスト」の店舗は、赤と白を基調にした店構えで、施工にあたっては息子である店長が、取り仕切りました。『めざせ日本一きれいな車屋さん。』を合い言葉に邁進してきました。実は店舗外の歩道に植えてある花壇は、当店が植えたものなんです。当然、車は綺麗にして、お客さんに気持ちよく乗っていただきたいと考えています。」

「現在、総勢21名の従業員で頑張っています。そのうちの1名は、今年4月に自動車整備の専門学校を卒業したばかりの期待の新人です。従業員

あつての会社ですので、大切に育てたいと思っています。」

当社は、長年地元に着目して業務を営んできました。これからも、地域の皆さんに貢献するために、地域の活性化をしっかりと考えて、堅実かつ誠実に事業を行い、期待に応えられるよう、従業員一同、頑張ります。」と川村社長は決意を述べられました。



小高区のサービス工場では、
民間車検も受けられます。



ずらり並んだ、豊富な展示車両。
店内は、新車を展示しています。

◆◆◆ 復興に向けた事業者からのメッセージ ◆◆◆



切磋琢磨して、一生懸命やっている姿を見れば、応援したくなると思います。また、そんな姿を見れば、お客さんも来てくれると思っています。

車も店舗もきれいにして、皆さんをお待ちしています。

株式会社川村自動車販売 9:30~18:30 (毎週火曜定休日)

URL: <http://www.k-4700.com/index.html>

(良質車専門店ネクスト)

福島県南相馬市原町区下高平字御屋敷268-1

連絡先: 0244-24-6500 [販売課]

0244-24-6501 [サービス]

(民間車検サービス工場)

福島県南相馬市小高区大井字観音前108

連絡先: 0244-44-4222

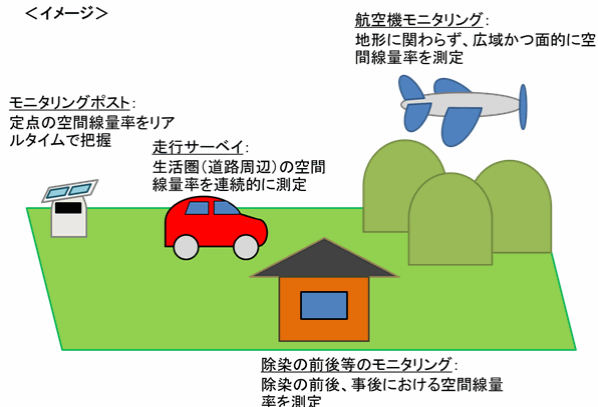


避難指示区域等における放射線量について

政府は、避難指示区域等の放射線量に関して、以下①、②の情報を定期的に公表してきました。

① 空間の放射線量を測定したデータ

<イメージ>



② 空間の放射線量から、その場に個人が屋外に8時間、木造の屋内に16時間滞在したと仮定して、年間に被ばくする線量を推計して得られるデータ(以下、「空間線量」という。)(航空機モニタリングに基づく年間被ばく線量のデータが、これに該当します。)

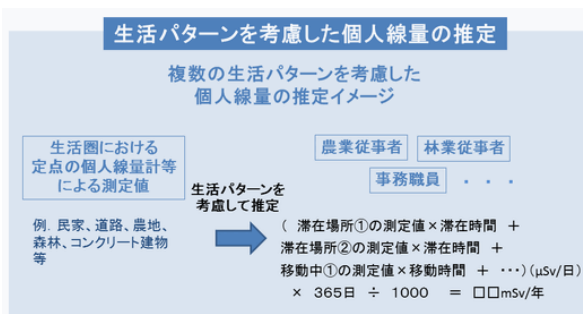
放射線被ばく量には、上記の空間線量のほか、人が個人線量計を携帯して、実際に測定する値(以下、「個人線量」という。)もあります。

この空間線量と個人線量の主な特徴は以下のとおりです。

- 空間線量は、個人の生活パターンを一律に仮定しているなどにより、個人線量の測定結果とは異なることが知られています。
- 個人線量は、1人1人の行動が反映された結果が得られますが、個人線量計を自宅に置いたまま等の場合、正確ではありません。

このような空間線量と個人線量の特徴を踏まえ、従来の空間線量と個人線量に加えて、これらを補うための個人線量の推計に関する調査を今回実施しました。調査結果のポイントは以下のとおりです。

- 「定点の個人線量計の測定値」＝「同一地点の空間線量計の測定値」×0.7の関係を確認
- いくつかの類型化された生活パターンを考慮した個人線量の推計手法を検証



今後は、①、②のデータに加え、各市町村と相談しつつ、上記の調査結果(③)など、以下③～⑤の3つの個人線量の測定結果等についても、公表していきます。

- ③ 定点における個人線量計等の測定結果を基に、いくつかの類型化された生活パターンを考慮して推計した個人線量のデータ
- ④ いくつかの類型化された生活パターンを模擬して、人が個人線量計を携帯して測定したデータ(「ふるさとへの帰還に向けた準備のための宿泊」(以下「準備宿泊」という。)の開始時などに、各市町村と相談しつつ、実施・公表します。)
- ⑤ 個人線量計を用いた住民の方々による実際の測定データ(「準備宿泊」の開始後の一定期間経過後に、各市町村と相談しつつ、公表します。)

今後も引き続き検証・改善を行うとともに、地元とも相談しながら、データの拡充・公表を行っていきます。



詳しくは、原子力被災者生活支援チームのホームページをご覧ください。

<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/radioactivity/index.html>

今年度の帰還困難区域への一時立入りの実施とゴールデンウィーク期間の特例宿泊の実施

■ 帰還困難区域への一時立入り

実施期間 : 通年(水、木を除く週5日)
対象市町村 : 4町(浪江町、双葉町、大熊町、富岡町)

一時立入り受付コールセンター

電話 : 0120-234-530

受付時間 : 8:00~21:00(祝・休日含む)

URL : <http://www.ichijitachiiri.com/>



■ ゴールデンウィーク期間の特例宿泊

実施期間 : 4月26日~5月11日(15泊16日間)

対象市町村 : 避難指示解除準備区域及び居住制限区域の市町村

(飯館村、南相馬市、川俣町、葛尾村、川内村(居住制限区域のみ)、楡葉町)



「ふれあいニュースレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニュースレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>